

最優秀賞

交通事故を目撃して

学校法人 西南学院西南学院小学校 4年 柳 哲人

ぼくは、先月、とてもこわい体験をしました。家族でおばあちゃんの家に向かっていたときのことです。

運転していたお父さんが、

「あれっ。前の車、フラフラしてるぞ。」

と言ったしゅん間、前の車が中央分り帯の柱に「ドッカーン」とぶつかったのです。そして、「ギュー」とすべって横向きになり、ぼく達の車の前に立ちはだかりました。前の車のボンネットはグシャグシャ、タイヤのホイールは外れ、サイドミラーは地面に落ちています。フロントガラスはわれ、運転手のおじさんは、頭から血を流しています。

いつかテレビで見た映像が自分の目の前で起きるなんて、信じられませんでした。ぼくは、ショックのあまり声も出ませんでした。ただ、家族が無事だったことに、心から安心しました。お父さんは、前の車がフラフラし始めてすぐ「あぶない」と感じてブレーキをかけたそうです。だから、ぼく達の車は、大破した車につっこまず、ほんの少し接触してペンキがはげただけですみました。もし、お父さんが異変に気づくのが遅れていたらと思うと、こわくてたまりません。事故の原因は、わき見運転だったそうです。交通ルールを守らないと周りの車や人も危険です。運転手さんは、ルールを守ってほしいと思います。

それからのぼくは、前よりも注意して横断歩道をわたっています。通学路は、スピードを出す車が多く、道もカーブしています。

この前、一年生が車道ギリギリに立って信号を待っているのが見えました。ぼくは、

「あぶないよ。一步下がって待とうね。」

と言いました。これからも、下級生に通学路で気をつけることを教えてあげようと思います。どんな命もみんな大切に、かけがえのないものです。みんなが交通ルールを守り、安全な社会になってほしいと願っています。